



南日本ハウスの
大規模木造建築

お役立ちレポート



木造のコスト について考える

はじめに

このところ全国各地で木造中高層マンションの建設が相次いでいます。
木造の大規模建築物といえば東京オリンピックの舞台となった新国立競技場が
記憶に新しいのではないのでしょうか。

2010年に「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」により
公共建築物の木造化・木質化が推進され、低層階の公共建築物の木造化率は90%を超えました。

2021年には法律改正され、民間建築物においても木造促進が進められています。
その目的は脱炭素社会の実現であり、最近よく耳にするようになったSDG s の取り組みです。

各地域の建築会社にとっては、目標11「住み続けられるまちづくりを」や
目標17「陸の豊かさを守ろう」が掲げられています。

ただ、お施主様の中で、
木造で中大規模の建物を建てるのが不安といった方多いのではないのでしょうか。
中でもまずコストについて、「実際どうなの？」と思っている方たくさんいるはずです。

本レポートより鉄骨・RCを木造化置き換えによる不安を少しでも払拭できれば幸いです。

木造の市場性

“ 民間の建築物に木造利用を促進し始めた！

2010年に施行された公共建築物の木造促進の法律が、公共建築物だけではなく民間建築物にも対象が拡大になり、2021年10月1日に施行されました。

公共建築物等木材利用促進法の改正

